

インタビュー調査に基づく矢祭町の今後の課題

人間学類4年 教育学主専攻

佐々木 優衣

1. もったいない図書館

矢祭町調査では、教育委員会の角田氏ともったいない図書館館長の金澤氏に詳しい話をうかがうことができた。もったいない図書館では、図書の受け入れを停止してからも寄贈が続き、現在の蔵書量は35万冊を超えるという。現在は10余名のスタッフが交代で図書館の貸し出し等を担当しているということだが、このスタッフはもったいない図書館創設時から本の分類などを手伝ってきたメンバーである。蔵書の発刊年が古いものばかりなのでは、と予想していたのだが、新刊を送ってくる人もいるようで、古い本ばかりというわけでもないようだ。しかし、今後は新しく図書を購入する必要があるかもしれないと金澤氏は述べる。例えば、情報の新しさが重要なジャンルの本などは、購入を検討する必要があると述べた。

2. 「合併しない」理由

角田氏によると、矢祭町が合併しない選択をしたのは合併をすればさらに過疎化が進んでしまい、矢祭町にとってマイナスになってしまう、という懸念があったためであるという。矢祭町は地理的な問題で交通の便が悪い。合併により、暮らしの中心はより栄えている

隣町へ移ってしまうだろう、と予測できたために合併しない道を選んだのであり、町を「死なせたくない」という町民の思いがそこにはある。マスメディアがどのように矢祭町を全国放送したのかが気になる場所である。というのも、企画段階で用意したシナリオありきで取材をし、シナリオにそって編集して特定の印象を視聴者にいだかせるように内容を作り上げている可能性がないとは言えないからであり、矢祭町のいわば「合併しない選択をせざるを得ない」状況を正確に伝えたのかどうか疑問だからだ。各種のマスメディアによる、矢祭町への言及内容とそこにある意図、そして全国から送られてきた手紙の内容の検討は今後の課題である。

3. 矢祭町の今後

矢祭町では年々、緩やかに人口が減少している。現在もったいない図書館を運営しているスタッフも、メンバー交代がおこって来るだろう。もったいない図書館創設時から関わってきたメンバーから世代が移り変わる中でもったいない図書館、そして矢祭町がどのように変化していくのか長いスパンで調査していく必要があるようだ。